

## 那覇広域都市計画事業 壺川土地区画整理事業

受賞機関 那覇市

はじめに

第2次大戦で地上戦のあった沖縄では、全域が米軍統治下に強制接収された。戦後徐々に返還されるが、那覇市街の主要拠点は返還が遅れ、市民に帰住復興が許されたのは墳墓がある地域のような利用度の低いところからとなった。

壺川地区は、那覇軍港から嘉手納基地への送油管が横断敷設され、戦前の主要交通であった軽便鉄道路線で、戦後、米軍用道路として利用された国道329号が、地区の中心を縦断し、国道沿線の偏向的開発が進み、東側の丘陵地には、墳墓や木造の戦後復興住宅が密集した。西側は那覇港を河口とする国場川の水利のため隣接した工場や漁港等が無秩序に立地するなど、都市基盤整備のないまま「まち」が形成されていった。

事業概要

名称：那覇広域都市計画事業  
壺川土地区画整理事業

施工者：那覇市

面積：37.3ha

事業年度：昭和58年度～平成14年度（換地処分）

総事業費：約169億円

計画人口：約8,800人



施工前現況及び計画

事業の特徴

既成市街地での土地区画整理事業であるため、減価地区となったが、地区特性を活用し減歩率の軽減やまちづくりに様々な工夫を図り事業を行った。

○地理（位置）的特性

- ・ 中心市街地に隣接する既成市街地 - 減価地区
- ・ ウォーターフロントを擁する（国場川）
- ・ 公共機関や企業の所有地を含む
- ・ 一部準工業地域から住居地域、さらに商業地域へ用途地域の変更

○事業活性の要因

- ・ 国道329号漫湖バイパス建設
- ・ 二級河川国場川の親水護岸整備
- ・ 都市モノレール（ルート及び駅）建設

○減歩軽減やまちづくりの手法

- ・ 公共用地先行取得
- ・ 住宅地区改良事業との合併施行
- ・ 民間との協働による市営住宅建設
- ・ 他事業による公共施設管理者負担金
- ・ 地区計画による建築物等の誘導
- ・ スーパーブロック街区



戦後復興住宅密集地区



住宅地区改良事業によって整備された街区